

ピロリ菌のお話③ 最終回

ピロリ菌除菌療法について

ピロリ菌の除菌療法は、1種類の「胃酸の分泌を抑える薬」と2種類の「抗菌薬」の合計3剤を服用します。1日2回(朝・夕)、7日間服用する治療法です。

正しく薬を服用すれば、1回目の除菌療法の成功率は約75%と言われており、最近では約90%とする報告もあります。自分の判断で服用を中止すると、除菌に失敗して治療薬に耐性を持ったピロリ菌が現れることがあります。正しく飲み続けることが大切です。

除菌療法を始めると、副作用が現れることがあります。



除菌療法の間に気になる症状を感じた場合や副作用が現れたら、 主治医または薬剤師にご相談ください。

除菌療法を含むすべての治療が終了した後、4週間以上経過してからのピロリ菌を除菌できたかどうかの検査は必ず受けて、結果を確認しましょう。また、検査に抗体測定を用いる場合はすべての治療が終了した後、6ヵ月以上あけてください。

一次除菌療法でピロリ菌を除菌できなかった場合

再び7日間かけて薬を飲む、2回目の除菌療法を行います。2種類の「抗菌薬」のうち1つを初回とは別の薬に変えて、再び除菌を行います(二次除菌療法)。

二次除菌療法の間は、アルコールの摂取(飲酒)を避けてください。

一次除菌療法で除菌ができなかった場合でも、二次除菌療法をきちんと行えば、ほとんどの場合、除菌が成功すると報告されています。

すべての治療が終了した後、4週間以上経過してからのピロリ菌を除菌できたかどうかの検査は必ず受けて、結果を確認しましょう。また、検査に抗体測定を用いる場合はすべての治療が終了した後、6ヵ月以上あけてください。

除菌後もピロリ菌が関係している様々な病気のリスクは下がりますが、ゼロにはなりません。除菌後も医師と相談の上、定期的な検査を続けましょう。